

国土技術政策総合研究所及び港湾空港技術研究所による現地調査結果

日程：9月27日(木)

調査内容：尼崎西宮芦屋港(芦屋沖地区)被災の現地調査

派遣団員：

本多 和彦 国土交通省国土技術政策総合研究所 沿岸海洋・防災研究部 主任研究官

平山 克也 国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所
海洋研究領域 波浪研究グループ長

調査結果

- ・近隣の検潮所（西宮）で既往最高（T.P.+2.64m）を超過し、潮位 T.P.+3.24m を記録。
- ・近隣の神戸港のナウファスで観測最高の有義波高 4.72m を記録。
- ・多くの住宅に浸水被害が生じた潮芦屋では、護岸における潮位・波高は、過去最高を上回っていた可能性がある（潮位は護岸天端高に比べ低く、ピーク前後のある時間帯に、越波による浸水が生じた）。
- ・北側の護岸での痕跡の様子から、水路内で副振動が発生していた可能性がある。



図-1 潮芦屋の海岸護岸と防護柵（応急復旧後）



図2 北側護岸と前面水路